



千八百七十八年三月三十日刊行  
ジヤパンタイムス新聞抄譯

條約改正、説附日本四貨幣、事



4159





貨幣ノ量目ニ當レル價格ニ於テ通用スヘシトノ  
ニ對シテ何幾ノ損害ヲ蒙ラシメヤヲ顯明ニシ又日本政府  
幾回其過失ヲ矯正スヘキ好機會ヲ失レタルヤ及ヒ幾回其理財  
家ホノ為メニ失策ヲ行ヒタルヤヲ枚擧シ又日本政府々二十年  
間ノ失政ノ為メニ何如シノ結果ヲ生シタルヤ及ヒ金貨ニ銀貨  
ニ紙幣タル種々様々ノ貨幣ヲ發シ遂ニ通貨ノ錯乱ヲ起シテ  
易ヲ妨ケ投機ノ高法ヲ増シタルヲ略陳シ又博學多識ノ日本  
新聞ノ一記者ノ論旨タル墨西哥ドルハ日本貿易ノ發肉十  
ルヲ以テ空シク之ヲ絶斷スヘシトノ言ヲ稱賛シ終ニ日本國カ  
蒙リタル衆多ノ弊害ヲ尽ク辨拆シ了レタルニ依リ幸ニ其治療  
ヲ求メハ豈夫ノ遠シトモヤノ一語ヲ以テ我カ論文ノ結尾ト  
為セリ

日本政府ハ分銀トドルラルトノ交換ニ由<sup>起</sup>セル不便利ヲ耐忍

シ難キ至リタルヲ以テ開港以後八年ヲ経テ始メテ正路ノ一  
所置ヲ為セリ  
其所置タルヤ海關稅則ノ最始ノ改正ニシテ千八百六十六年ノ  
改條約第六條ニ於テ左ノ如クニ開陳シテ外國ノ同意ヲ得々  
リ  
日本ト外國トノ條約中ニ外國貨幣ハ日本貨幣ト同種同量ノ割  
合ヲ以テ通用スヘシト取極メタル箇條ニ從ヒ是迄日本運上所  
ニテ墨是哥ドルラルヲ以テ運上ヲ納ムル時ハ壹分銀ノ量目ニ  
比較シドルラル百枚ヲ一分銀三百十一ヶノ割合ヲ以テ請取來  
レリ然ル処日本政府ニ於テ右仕來ヲ改メ總テ外國ノ貨幣日本  
ノ貨幣ト引替ル事ニ障リナキ様ニシ又日本通用ノ貨幣ヲ不足  
ナキ様ニシ交易ヲ便利ニマン事ヲ欲スルニヨリ日本金銀吹立  
所ヲ盛大ニセン事ヲ既ニ決セリ然ル上ハ日本人又ハ外國人ヨ

リ差出スヘキ總テ外國金銀貨幣及地金ハ日本貨幣ニ吹替ヘ其  
諸雜費ヲ差引其質ノ真位ヲ以テ其為メ定メタル場所ニ於テ列  
國ニ書載タル貨幣通用ニ關係セル箇條ヲ改ムル事緊要ナリハ  
右箇條ヲ改ムル様日本政府ヨリ申認レ承諾ノ上日本來丁卯年  
十一月中(西洋千八百六十八年第一月一日)ヨリ其処置ヲ取行フ  
ベシ  
吹替ノ雜費トシテ取立ヘキ高ノ割合ハ向後雙方ノ全權協議ノ  
上定ムヘシ  
千八百六十八年一月一日ハ實ニ日本國ノ新政府ノ出產ノ為メ  
ニ前途ノ困難ヲ豫シメ嘗味セシ時ナリキ然レモ維新政府ノ大  
臣ハ我輩ノ企望セシ如ク迅速ヲ以テ總テ徳川將軍ノ約諾ヲ履  
行セリ

英國西屬ノ香港移民ハ其造幣寮ノ事業ヲ詳細ニ調査セシテ  
之ヲ放棄シタルニ依リ即チ日本政府ハ之ヲ購テ得テ大阪ニ設  
立セリ  
是日本政府ク曾チ行ヒタル過失ノ端緒ニシテ其地位タルヤオ  
リエントタル銀行ノ諫言ニ逆フテ相ナセシモノナリ然レ共當時  
外國高買ノ衆多ハ東京ニ非ラス横濱ニ非ラス大阪ガ將ニ日本  
貿易ノ大都會トナルヘシト企望ヲ懷ケリ而シテ此企望タルヤ  
其後益々人目ヲ眩惑シ又日本國ノ大臣モ之ニ益感セラレタ  
ルヲ以テ過失ト雖モ尚ホ恕スヘキ所ナリ  
我輩記者ハ千八百六十六年ノ假條約第六條ヲ結了シタル官吏  
等々其豫チテ期シタル改略ヲ實際ニ施行スルヲ能ハサリテ  
遺憾ト為ス  
何トナレハ後令其官吏ノ結了シタル假條約第六條ニ墨西哥ド

ルラルハ自他ノ地金ノ如ク日本造幣寮ノ改鑄ヲ經テ日本國內ニ通用スヘキ事ト云フ字面ヲ明記セスト虽ハ文中既ニ其意義ヲ含蓄シ又依令其官吏ハ後日金銀兩通貨ノ法制ヲ採用スヘキ過失ノ徴ヲ顯ハシタリト虽モ尚ホ銀貨幣ノ價格本位トシテ單ニ日本銀圓ヲ用テ墨西哥「ドル」ノ如キハ其定價及ヒ定價ニ論ナリ價格上ニ於テ數ニ動搖ヲ生スルヲ以テ之ヲ廢棄セント陽ハニ言辭ニ表ハサズト虽モ陰カニ之ヲ腹藏セシメテノ明瞭ナルヲ以テナリ

然ルニ後進ノ官吏ハ通貨條款ヲ改正センコトノ企望ヲ成就セシメンニハ至ラ緊要ノコトタル右ノ事項ヲ不幸ニ看過シ去レリ嗚呼實ニ<sup>痛</sup>恨スヘキ哉何トナレハ明ラカニ彼等ハ誠忠ノ心意ヲ以テ此クノコクナレハナリ

日本政府ハ新造幣寮ニ於テ造幣ノ事業ヲ興ワンカ為メニ「マシ

オール、キンドル」氏ヲ僱使スルコトヲ得タリ而シテ同氏ハ造幣ノ技藝ニ於テハ昔テ政羅巴ノ全洲ニ其英名ヲ洩カセシ人ニシテ凡ソ日本政府ク曾テ僱使シタル外國雇人中ニ於テ最モ善良隨一ノ人ナリキ

是ニ於テ同氏ハ實ニ技能ニ通曉シタル屬官ヲ率ヒテ日本ニ到著シ諸事ヲ調整シテ造幣寮ヲ開業シテ八百七十一年四月四日ヲ以テ大ニ貨幣ノ鑄造ニ著手セリ

然レハ此時ニ當テ日本政府ハ甚タシキ過失ヲ行ヘリ而シテ其過失タルヤ枝葉ノ過失ニ非ラスレテ根本ノ過失ナリ即チ造幣寮ヲ設立スヘキ地位ヲ誤相セル如キ宥恕スヘキ類ノモノニ非ラス即チ遺漏忘記ニ由ル過失ニ非ラスレテ日本政府ハ屬ノ外國兩替師及ヒ外國造幣官吏等ノ極諫抗論ヲ用マスレテ自用ヲ以テ行ヒタル有心故意固執我慢ノ過失ナリ即チ七年間造

幣察カ日本國ニ蒙ムラシメタル損失ヲ釀成セシ過失ニシテ造  
幣察カ日本國ニ与ヘタルヘキ利益ヲ反ツテ奪却シタル過失  
リ  
抑モ其過失トハ何ツヤ曰ク金貨ヲ以テ本位ト為シ且之ヲ本位  
ト為シタルモ猶ホ銀円ヲ以テ全然扶助貨幣ト為サ、リシト是  
ナリ  
日本政府カ造幣寮ヲ開業シタル後チ直チニ人民ニ公告シタル  
貨幣條例ノ第四條ニ曰ク  
日本政府ハ開港場ニ於テハ貿易ノ便利ヲ計リ現時日本人民  
及ヒ外國人ノ請願ニ應ジテ為メニ銀貨幣ヲ鑄造スヘシ但シ  
此銀貨幣ハ特ニ貿易貨幣ト為シ貿易事業ヲ便益スル為メニ  
鑄造セルモノナリ  
此一ノ銀貨ハ輸出輸入ノ海關稅及ヒ其他開港場ニ於テ拂フ

ヘキ諸稅金ノ上納ニ於テ用ユヘク又日本高價ト外國高價ト  
ノ間ノ取引上ニ於テ用ユヘシ但シ各種ノ内國稅金上納ニ於  
テハ之ヲ用ユヘカラス又一般ニ通用スヘカラス然リト云ハ  
日本國中ニ於テ人民互ニ承諾ノ上支拂上ニ於テ之ヲ授受ス  
ルハ固ヨリ人民ノ随意タルヘキ事  
海關稅及ヒ開港場ノ諸稅金ヲ上納スルニ於テ銀円ト本位金  
貨トノ間ノ價位ハ現今ハ銀円百圓ニ付キ金円百圓ノ  
割合タルヘキ事  
元來日本政府ハ「オリエンタル銀行及ヒ「マジオル、キンドル」氏ノ  
助言ヲ用ヒテ諸事ヲ施行シ銀ヲ以テ本位ト為シ銀円ヲ以テ價  
格ノ標準及ヒ合法貨幣ト為シ金貨幣及ヒ小價位ノ銀貨幣ノ單  
ニ通貨ヲ扶助スル貨幣トシテ之ヲ用ユヘキ所存ニテアリキ  
然ルニ不幸ニシテ日本政府ノ官吏輩ハ政米ノ間ニ行ハル金

銀兩通貨ノ法制ニ屬スル利益ノミニ倦々トシテ其心意ヲ凝ラシ又書物上ニモ拘泥シテ碩学鴻儒ノ高論名説ヲ体認シ又都邑ノ債幣改正會議ヲ聞キテ日本貨幣ノ将来ノ為ニ如何シノ所置ヲ以テ最大ノ利益アリ且便宜ナルモノトスルヲ致々汲々トシテ熟思詳論セリ

日本政府ノ官吏輩ハ斯クノ如キ討論評議ヲ経テヨリ教週間ヲ過キスレテ貨幣ノ処分ヲ決議スルヲ得タリ即チ其決議タルヤ新貨幣條例ノ形名ヲ以テ世ニ顕出シタルモノニシテ貨幣及ト理財ノ事項ヲ以テ畢生間己ノ學業ト為セル人々ノ曾テ日本政府ノ進路トシテ畫策シタル方向ヲ放棄セルト是ナリ  
實ニ日本人民ハリウベトシテ先即チ子孫ト云ハカ  
ルヲ得ス何トナレハ日本人民ハ威儀凜然トシテ尊嚴ノ風承アリ権カモ亦タ随テ強盛ナリト虽モ一惡性ノ之ニ膠漆スルアツ

テ如何ンシテモ之ヲ洗雪スルト能ハサレハナリ  
嗚呼日本人民ヨ汝ハ水ノ如ク動揺シテ更ニ決定スル所ナラ  
以テ到底他國ニ秀逸スルト能ハサルゾヨ

我輩記者ハ一般ニ金銀兩通貨ノ法制ニ係ハル弊害及ニ利益ニ就キ一論説ヲ記載スルトテ欲セス何トナレハ假令ニ我輩記者カ之ヲ記載スルト虽モ讀者中理財ノ事理ニ通曉シ或ハ此ニ意ヲ注スルヨリ我輩ノ論文ヲ把テ玩味評品スル者ハ實ニ僅々ニ過キナルヘレ而シテ其餘ハ皆理財ノ事ヲ解セサル者或ハ此ニ注意セサル者ニシテ到底我輩ノ議論ヲ通讀セスレテ放棄スルモノナルベケレハナリ  
我輩記者ハ只ニ日本政府ニ在テ金銀兩通貨ノ法制ヲ引田レタルニヨリテ日本ニ生シタル結果ノ概略ヲ記スルヲ以テ足レリト為ス

何ヲ以テ日本政府カ金銀兩通貨ノ法制ヲ用ヒタリト云フヤ  
曰ク仮令モ日本政府カ名義上ニ於テハ金貨ヲ以テ本位ト爲シ  
合法貨幣ト爲シ銀兩貨幣ハ單ニ尙港場ニ於テ諸税金及ニ海關  
稅ヲ上納スルニ用ユヘク又日本人民ト外國人民トノ間ノ商業  
取引ニ於テ用ユヘシト公告シタリト雖モ亦タ同時ニ日本國中  
ニ於テ人民互ニ承諾ノ上ハ支拂ニ於テ銀兩貨ヲ用ユルハ固ヨ  
リ人民ノ随意タルヲ報告シタレハナリ  
或ル人ノ説ニ依レハ日本政府カ若シ其貨幣條例中ニ日本國中  
ニ於テ人民互ニ承諾ノ上ハ支拂上ニ於テ銀兩ヲ用ユルヲ随意  
タルヘキトノ言辭ヲ明記セサリレナラハ固ヨリ日本人民ハ輕  
々易々タル鎖束ノ事項ニ関シテスラ其都度政府ノ指令示教ヲ  
慣受シタルカ故ニ忽チ銀兩ヲ嫌避スルノ念慮ヲ生スルト必然  
タルヲ以テ特ニ此條ヲ挿入セシモノナリト云フ

然レモ我輩記者ノ所見ニ依レハ此條ヤ其説ノ如キ深切ノ意ヨ  
リ出テシモノニ非スレテ即チ海關稅ノ上納ニ於テ金貨ニ換フ  
ルニ銀貨ヲ以テスル者ニ一時百分一ノ利益ヲ与ヘタルト均シ  
ク銀本位ヲ主張スル者ヲ慰安スヘキ不深切ノ意ヨリ出テシモ  
ノト思ハルハナリ  
固ヨリ銀本位ヲ設立セントテ主張セル者ヲ日本政府カ慰安ス  
ルヲ能ハザリレハ我輩ノ贅言ヲ待タサル所ナリ請フ試ミニ尙  
港場ノ報告書ヲ一覽セヨ金銀兩貨俱ニ日本國內ヲ通用セス鑑  
解ノ爲メニ外國ニ輸出セラレノ數幾何ナルヲ知ルヘシ既ニ  
今日兩貨幣ハ恰モ生糸カ襦袢地ノ如ク賣買セラル、物品ト化  
シ外國ノ市場ニ於テ金銀地金カ其價格ヲ動搖スル毎ニ或ハ販  
賣サレ或ハ購求セラル、ニ至レリ  
夫レ斯クノ如キ景況ヲ来タセル所以ハ即チ千八百五十八年ニ



初メテ日本政府ク條約ヲ結了スルニ當テ行ヒタル過失ニ原ス  
ルモノニシテ其過失タルヤ千八百六十六年ノ條約結了ノ時  
ニ當テ之ヲ匡正セス又千八百七十一年貨幣條例發行ノ時  
テモ亦タ其俟存在シテ之ヲ匡正スルコトナカリシ故ナリ  
墨西哥ドルラルヲ通貨トシ又日本國債ト競争スル者トシテ其  
終ニ之ヲ存置シ只ニ地金トシテ之ヲ受取リ日本造幣寮ニ於テ  
尽ク之ヲ改鑄スヘキ日本帝國天賦固有ノ主權ヲハ日本政府ハ  
要求スルコトヲセザリキ抑モ此主權タルヤ日本政府ニ於テ一回  
之ヲ要求スレハ政羅巴各國ノ天下ニ公認サレタル万国公法ノ  
原理ヲ踏ムモノ一トシテ之ヲ与フルヲ拒ムヘキ權利ヲ有スル  
コトナリ又必シモ之ヲ拒ムコトヲ欲セサルヘキ主權ナリ然ルニ日  
本政府ク曾テヨリ之ヲ要求セサルハ何ソヤ我輩ノ更ラニ解マ  
カル所ナリ

我輩記者ハ以為ラク切迫シタル海關稅則改正ノ期ニ至ラハ必  
ラスヤ日本政府ハ其天賦固有ノ主權ヲ日本國ニ回復センコトヲ  
飽マテモ主張スルナラン而シテ日本貿易ハ支那國ノ兩替師ノ  
為メニ久シク掠奪セラレタル墨西哥ドルラ即チ日本貿易ノ  
贅肉タル形状ヲナセル不正理ノ税金ヨリ終ニ免レ出ルヲ見ル  
ヘシト

何トナレハ其主權ノ回復コソ全ク我輩記者ク百方議論ヲ費ス  
所以ノ本原タルヲ以テナリ

元來日本造幣寮ク墨西哥ドルラルヲ日本國債ニ改鑄スルニ其  
料トシテ百分ノ二ノ歩合ヲ得ヘキ決心ヲ以テ之ニ著手シ墨西  
哥ドルラタル法律ニ依ルモ亦タ條約ニ依ルモ日本國債ト同  
等同格ノ通貨ニシテ又海關稅及ヒ其他諸稅ノ上納ニ於テ故障  
ナク之ヲ用ユルコトヲ得ヘキ貨幣カ強迫セサルモ自然改鑄ノ為



曾テ秘シタル密事ノ一項ヲ語ラシ抑モ墨西哥「ドル」中或時  
ニ於テ発行サレタルモノハ其銀量四百十七「グレ」エシ百分ノ六  
十中ニ純金ノ小分子ヲ含蓄セリ此金分子タルヤ其貨幣ヲ発行  
シタル墨西哥造幣寮ハ銀鑛金ノ中ヨリ之ヲ採取スルノ器械ヲ  
有セサルニヨリ之ヲ採取スルコト能ハカリシナリ然レモ日本大  
阪造幣寮ハ倫敦府ノ地金分拆所ノ如ク之ヲ採取スヘキ充分ノ  
器械ヲ具備セリ故ニ之ヲ採取スル時ハ其價能ク分拆ノ勞ニ對  
シテ造幣寮ニ報謝スヘシ

固ヨリ墨西哥「ドル」ヲ改鑄シテ新旧ノ交換ヲ為スニ當テハ  
今既ニ世上ニ流通スル墨西哥「ドル」ノ價偽貨幣ヲ日本政府  
ニ受取ラサル可ク至當ノ豫防ヲ用ユルコト緊要ナリ而シテ  
我輩ノ考察スル所ニ依レハ新墨西哥「ドル」ハ旧墨西哥「ドル」  
ヲルニ換フルニ數ト數トヲ以テモ分量目ト量目トヲ以テスル

ヲ公平ナル一處置トスルナリ然レモ固ヨリ猶ホ日本政府カ幾  
何ノ損失ヲ蒙ラサルコト能ハサルナリ是日本政府ニ於テハ不平  
ヲ鳴ラカスレテ擔任セズンハアルヘカラサルナリ

墨西哥「ドル」改鑄ノ損失ヲ償フヘキ此改革ノ利益ハ直チニ  
顯出シ来ルヘシ而シテ此利益ハ改鑄ノ損失ヲ償却シテ最早世  
人カ此損失ヲ忘却シタル後チ尚ホ長久増加レ行クヘキ利益ナ  
リ  
然レモ日本政府ハ最早過失ヲ為ササル可ク将来ヲ謹戒セサル  
ヘカラス

我輩記者ハ何如シテ日本貨幣カ堅固ナル基礎ノ上ニ挽回ス  
可キヤヲ明表スヘキ議論ノ末尾トシテ何故ニ日本貿易「ドル」  
ルハ廢棄セサルヲ得サルヤヲ解説スヘシ  
當今必須ノ事項トシテ只ニ之ヲ述ルヲ以テ足レリトス

純量九百ニシテ量目四百十七、ダレエニ百六十ノ六ノタル銀四ヲ以テ條約面ニ載セヨル開港場ニ於テノミナラス日本全國ニ於テ合法貨幣及ニ通貨トシテ用ヒスルハアルヘカラス  
凡ソ通貨ノ事ニ於テハ常ニ單一ヲ主トセサルベカラス而シテ一貨幣ヲ以テ某ノ目的ニ於テハ合法貨幣トシ某ノ目的ニ於テハ合法貨幣ナラズトスルハ是其貨幣ニ与フヘカラサル虚價ヲ以テ時々之ニ与フルモノト云フヘキナリ

國ヨリ以上ニ云フ所ノ銀貨ヲ使用スル為メニ今時日本國內ニ流通スル紙幣ヲ妨害セサル可ク注意セスルハアル可ラサルナリ  
而シテ此危懼ヤ曾テ金貨ヲ通貨トセンノ希願ヲ日本貨幣條例草案者ヲ感動シタル如ク亦テ彼等ヲ感動セルモノト思ハル試ミニ見ヨ前キニ全ク引書シタル貨幣條例ノ第四條ニ於テ

彼等ハ銀貨ハ各種ノ内國税金上約ニ於テ用ユヘカラス又一般ニ通用スヘカラスト取極メタルニ非ラズヤ  
今ヤ又紙幣ヲ至当ナル基礎ノ上ニ確立スヘキ好機會ニ乘マサルヘカラス  
日本政府ク其紙幣ヲ改羅巴ノ富強國タル我英國ノ銀行紙幣ト同等同格ノモノト為レ且其紙幣ヲ要求次第直チニ銀貨ト引換ユヘシト公告スルヲ能ハサルヤ明カナリ  
然リト虽モ今ヤ此方向ニ於テ一歩ヲ進ムルハ緊要ノ秋ナリ  
我輩記者ハ屢ニ掲載シタル如ク日本國ハ各他國ニ秀テ無類特別ノ一利益ヲ占有ス是レ日本國カ長ク宇内ノ各國ト絶交隔離シタルニ由起セリ何ツヤ曰ク日本人民ハ其政府ノ直チニ金ト引換ユルヲナキ拂フヘキ契約書ヲ最モ能ク信憑スル是レナリ

然レモ日本國ト外國トノ貿易日々々旺盛ニ至ルニ隨ヒ日本國ハ外國人ノ心裡ニ於テモ其紙幣ヲ信憑スルノ情意ヲ薰陶スルヲ求メサルヘカラス  
日本國ハ是マテ諸外國ニ對シテ結ベル負債ノ契約ハ其時期ヲ違エズ又迅速ニ之ヲ拂ヒタルヲ以テ外國ニ其信用ヲ起スニ於テ大ニ成功ヲ為セリ  
故ニ日本政府ハ可及的迅速ニ其現今ノ引換ナキ紙幣ヲ要求次第直テニ銀貨ト引換エヘキ紙幣ニ変更スヘキ所存ナルヲ報告セハ大ニ其外國ノ信任ヲ増カン  
日本國カ此ノ如キ報告ヲ出カハ低利ヲ以テ新タニ外國負債ヲ負シ其内國ノ高利負債ヲ償却センノ企望ヲ大ニ裨益スル所アルヘレ  
日本紙幣及ヒ銀貨ハ兩者ハ全ク之ニ分別シテ論スルヲ能ハサ

ルカ如キ其間ニ混淆シタル關係アルニ非ラザレハ以上ニ云フカハキハ全ク放本取末ノ論ト云ハサルヲ得ズ  
然レモ我輩今我カ本論ニ還帰シテ再論セン銀田ハ總テノ場合ニ於テ用エヘキ合法貨幣タラサルヘカラス而シテ紙幣ハ日本人民ク之ヲ受領スルヲ欲スル金額ノ合法貨幣ト為ササルヘカラス  
我輩ハ於此主論ニ於テ充分ニ主張シ又其餘波ニ於テ墨西哥同ルタルハ通用ノ域外ニ追駈セシムハアルヘカラサルヲモ充分ニ主張シタルヲ以テ最早茲ニ論鋒ヲ歛ム可シ  
扶助貨幣ノ一及ヒ日本造幣寮ノ事業ヲ擴充シテ支那國貿易ニ於テ用エヘキ貨幣ノ鑄造機械ヲラシメンノ一(斯ノ如ク墨西哥同ルタル日本貨幣ノ鑄造主權ヲ回復スル以上ハ各條約メン)及ヒ日本政府ニ貨幣鑄造主權ヲ回復スル以上ハ各條約

國々日本政府ニ對シテ要求スヘキ保証防備ノ事ホノ詳論ノ如  
キハ既ニ過長ナル我社説ノ論尾ニ於テ既ニ倦厭シタル讀者看  
察ラレテ注意セシムベカラサル緊要ノ論主タリ故ニ他日ヲ俟  
ツテ之ヲ論セン

